

une fois que / aussitôt que 節の特徴 過去分詞構文との比較のために

藤 村 逸 子

0 . はじめに

フランス語の過去分詞構文は、一般に(1)(2)のように名詞句(以下 NP) + 過去分詞(以下 PP)の語順をとるが、sitôt、 aussitôt、 une fois、 à peine などの後に続く場合には、(3)(4)(5)のように PP + NP の語順になることも多く、およそ3分の1がこの語順をとると推定できる¹。

- (1) *Le cours terminé, on s' est retrouvés.*
- (2) *Une fois le cours terminé, on s'est retrouvés.*
- (3) *Le 10 germinal, ils reçurent un ultimatum et, aussitôt connu le traité de Bâle, Reubell et Sieyes partirent pour La Haye où ils arrachèrent aux états le traité du 27 floréal / 16 mai /.* (Lefebvre, *La révolution française*)
- (4) *Une fois arrêté le " découpage " du ballet, une fois " utilisé " l' argument, le choréauteur doit fixer la mise en scène de l' oeuvre.* (Lifar, *Traité de chorégraphie*)
- (5) *Le style Actor's Studio de Lady Di en a fait une très correcte interprète de son rôle de princesse presque inutile une fois accompli son devoir de mettre au monde les lionceaux qui garantissent la continuité de la monarchie.* (*Le monde diplomatique*)

NP をともなう分詞構文における NP と PP の関係は一般に、主語と述語の関係と考えられている。しかし一方、フランス語文法において PP は、avoir + PP か être + PP の構成要素と見なされ、独立した要素としては扱われないのが普通である²。したがって分詞構文の PP はそれ自体で述語の資格をもっているとは考えられず、être が不足した、あるいは être を補うべき要素と見なされている。avoir と être のうちで省略や挿入が自由のできるのは être なので PP 構文の PP を補うのも être であるとされ、綿密な検討の対象にされることのないまま定説となってように思われる。こうして(2)のような PP 構文は une fois que 節や aussitôt que 節などの従属節から être の省略の結果うまれたという説明が自明のことのようになされてきた(Sandfeld (1977) など)。しかし語順の逆転した(3)(4)(5)のような例の場合には説明は容易ではない。

NP と PP の語順の問題を正面から扱った研究は筆者の知る限り、Lapierre (1998) しかないが、Lapierre にしても厳密な分析を行っているわけではなく、単に次のようなパラフレーズが提案されているだけである。語順の違いを従属節中の受動文の主語の正置と後置の問題ととらえていることが伺われるが、直感的に、倒置受動文が PPNP の語順の分詞構文に匹敵するほどの高い頻度で存在するとは考えにくい。

(6) Car *une fois établi un système de relations*, celles-ci ne peuvent se modifier sous peine de faire perdre toute signification à ce qui en possédait déjà valeur de message.

(6 ') =Car *une fois qu'a été/ qu'est établi un système de relations*, ...

(7) Le temps de latence réapparaît, au contraire, lorsque le repiquage est fait *une fois la phase exponentielle dépassée*.

(7 ') = *une fois que la phase exponentielle a été/ est dépassée*... (Lapierre (1998:144))

(3)(4)(5) のような PPNP の語順の分詞構文に対しては、(3 ')(4 ')(5 ') のような能動文を仮定することもできるが³、こうすると être の省略という定説には反することになる。

(3 ') *aussitôt qu'ils connurent / eurent connu le traité de Bâle*...

(4 ') *Une fois qu'il a arrêté le "découpage " du ballet, une fois qu'il a "utilisé" l' argument, ...*

(5 ') *une fois qu'elle a accompli son devoir de mettre au monde les lionceaux*...

本稿の目的は、これらのパラフレーズの適否について議論することではないし、PP 構文とこれらの従属節の関係について議論することでもない。PP 構文を従属節から派生すると考えてよいかどうかなどの検討を行うためには、まず PP 構文と従属節それぞれの特徴を知る必要があるが、そのような先行研究は存在しない。本稿はしたがって、現実に使われている *une fois que* 節、*aussitôt que* 節を記述し、*une fois, aussitôt* に後続する PP 構文との比較のためのリファレンスを作ることを目的とする。

1 . コーパスと記述の基準

PP 構文に先行する表現のうち、*une fois* と *aussitôt* を分析の対象とした理由は、第一に頻度の高さであり、第二に電子的な検索の容易さである。*une fois* は Blanche-Benveniste (1998 a) も述べているとおり、PP 構文を導く表現の中で突出して頻繁に用いられ、か

つ広汎なジャンルの文体にあらわれる。aussitôt は他の表現と比べて特に頻度が高いというわけではないが、検索のしやすさと比較的日常的な表現であることを理由に選んだ。電子コーパスは次のものを使った。

- A) Frantext (以下 FR): 対象にしたのは演劇と詩をのぞく1950年以降のテキスト、420点、約2970万語 (2000年6月の時点で登録されているもの)。
- B) Le Monde Diplomatique 1984-1998 (CD-Rom 版)(以下 MD): 82.6MB、約1320万語。

分析の基準としたのは、次の各項目である。

- コーパスの種類 (FR か MD か)
- 主節・従属節の述語の項構造、態、時制
- 主節・従属節の位置関係 (前置か後置か)
- 名詞句 (従属節主語・従属節目的語・主節主語) の限定度、指示対象、語長

本稿では紙幅の制限のために、最後に挙げた名詞句に関する各項目には触れることができなかった。これについては稿をあらためて論じる。

以下ではまず2において、PP 構文に関する議論においてキーワードとなる 語順、avoir、être、PP について記述して、une fois que 節と aussitôt que 節の全般的な特徴を述べる。3では従属節と主節の述語の特徴の比較を行い、4で主節と従属節の位置関係について検討する。最後に5でそれぞれの節にあらわれる述語の時制の分布を明らかにする。

2 . 全般的特徴

データ総数は表1の通りである。une fois que、aussitôt que のどちらの表現も、FR における方が MD におけるよりもずっと頻度が高い。aussitôt que は MD では10例と特に少なかった。

表1：総数

	une fois que	aussitôt que
FR	211	111
MD	48	10
total	259	121

Lapierre (1998) があげた (6') のような倒置受動文は、我々のコーパスの中ではきわめてめずらしく、以下のように単純倒置が 2 例、非人称受動による倒置が 1 例見つかっただけである。

- (8) *Même si elles interviennent une fois qu'ont été effectués les licenciements les plus massifs, ces dispositions marquent une étape historique dans les rapports entre le patronat et les syndicats. (MD)*
- (9) *Dans le cas du contrôle, par exemple, nous devons trouver, aussitôt qu' a été observée une modification dans l'état d'une unité d'information, quel objet ou quelle propriété a changé. (Jolley, Le traitement des informations)*
- (10) *La première résulte du souci d'expliquer le rôle joué par l'objet esthétique une fois qu'il est constitué "sociologie de l'architecture, de la peinture, etc. (Gurvitch, Traité de sociologie)*

表 2 は、une fois que と aussitôt que 節の述語を、動詞の種類、態、動詞の複合形・単純形を基準にして分類したものである。une fois que、aussitôt que とともに PP の出現率は非常に高い。特に une fois que では複合時制が全体の 66% を占めており、単純時制の受動文の PP を加えると、202 例、実に全体の 78% に PP があらわれることがわかる。aussitôt que では、単純時制の割合が高く、複合時制は全体の 35% にとどまる。受動文の PP を加えると、52 例、全体の 43% に PP が見られる。これらの PP に語彙的な偏りは認められなかった。頻度の高い PP は、多いものから順に、sorti (8 例) eu, mis, (各 7 例) entré, pris, terminé, obtenu, (各 5 例) である。aussitôt que 節では、すべての PP が 1 回または 2 回の頻度であらわれ、3 回以上出現する PP は存在しなかった。sorti は 3 例が他動詞能動複合形としてあらわれ、5 例が自動詞の複合形としてあらわれた。avoir が高頻度であらわれるのは興味深いので、以下にその 7 例を挙げる⁴。avoir は受動文にはならないので、これらはすべて他動詞能動複合形である。

- (11) *Une fois qu'il l'a eu dans le buffet mon lunch, ... il a commencé à s'inquiéter du voisinage. (Boudard, La cerise)*
- (12) *une fois qu'il m'avait eu à sa merci, il m' avait annoncé sans ménagement qu' il ne m' aimait plus (Beauvoir, Les mandarins)*
- (13) *une fois qu'elle, l'Ambassadrice, avait eu la certitude que le gros de l'assistance se ralliait à elle, l'approuvait : Sothe. (Bianciotti, Sans la miséricorde du Christ)*

表 2 : 従属節の構造

		une fois que					aussitôt que					
		simple		composé		total	simple		composé			
tr actif	FR	16	18%	75	82%	91	31	58%	22	42%	53	
	MD	5	28%	13	72%	18	4		3		7	
		21	24%	88	52%	109	42%	35	45%	25	61%	60
passif	FR	25	63%	15	38%	40	11	79%	3	21%	14	
	MD	7	44%	9	56%	16	0		1		1	
		32	37%	24	14%	56	22%	11	14%	4	10%	15
int	FR	4	10%	39	90%	43	19	70%	8	30%	27	
	MD	0	0%	5	100%	5	1		1		2	
		4	5%	44	26%	48	19%	20	26%	9	22%	29
pronominal	FR	2	18%	9	82%	11	8	73%	3	27%	11	
	MD	1	20%	4	80%	5						
		3	3%	13	8%	16	6%	8	10%	3	7%	11
être	FR	23	96%	1	4%	24	3	100%	0	0%	3	
	MD	4	100%	0	0%	4						
		27	31%	1	1%	28	11%	3	4%	0	0%	3
total		87	34%	170	66%	257	77	65%	41	35%	119	
autres						2					3	
						259	100%				121	100%

- (14) Pas de ces rencontres que, *une fois qu'elles ont eu lieu*, il me faut revivre tout seul par l'imagination afin de conférer une certaine épaisseur à leur existence. (ibid)
- (15) *une fois qu'elle l'avait eu*, elle considéra que le voyage à Cumiana s'imposait d'urgence. (ibid)
- (16) cet événement appartiendrait *aussitôt qu'il en aurait eu connaissance " normalement* (Amadou, *La parapsychologie*)
- (17) ce petit Samuel, *une fois que Jésus avait eu les menottes*, il lui avait allongé un coup de poing personnel dans la figure, de toutes ses forces. (MD)

次に être であるが、une fois que 節は、aussitôt que 節に比べて être を主動詞とする割合が非常に高い(11%vs 2%)。また、受動文及び、自動詞と代名動詞の複合形の一部は助動詞に être を用いるため、une fois que 節では112例に être があらわれ、それは全体の43%におよぶ。aussitôt que 節では26例にすぎず、全体の21%である。主動詞にあらわれる

être (31例) は 1 例を除いてすべてが単純形である。内訳は être + 前置詞句 (19例)、être + 形容詞 (4例)、être + 場所の副詞 (6例) などである。唯一の複合形の例と前置詞句、形容詞を伴う例を 1 例ずつ挙げる。

(18) Mais tu sais comment ça se passe, *une fois que j'ai été sur le coup*, j'ai refusé qu'on me relaye. (Labro, *Des bateaux dans la nuit*)

(19) *Une fois qu'on est en route*, tout doit être fait proprement en suivant notre plan. (Clavel, *Malataverne*)

(20) Peut-être *une fois que Blanche était présente pendant les tractations...* qu'elle a dû faire une remarque. (Boudard, *Mourir d'enfance*)

une fois que 節と aussitôt que 節の意味の差異に関しては、研究者の意見はほぼ一致している (Sandfeld(1977)、曾我 (1992) など)。une fois que 節においては従属節で述べられている出来事の完了 (accomplissement) - 出来事の結果の状態にいたる過程の完了 - が主節の出来事の開始の条件と考えられるのに対し、aussitôt que 節では単純に、主節の出来事が従属節の出来事に引き続いて直後に起こること、あるいはほぼ同時に起こることが示されている。Hanse (1987) は、次の例を引いて、従属節と主節の出来事がほぼ同時におこる場合には、従属節、主節ともに同じ時制を使うのが適切であると述べている。

(21) *Aussitôt qu'on lui fit (ou eut fait) ce reproche*, il se mit en colère.

(22) Il vous recevra *aussitôt que vous arriverez (ou serez arrivé)*.

Okubo (1999) も、(21) のような文における前過去形と単純過去形の違いに関して、前過去形は、主節の出来事の始まる前に従属節の出来事が完全に完了している場合に用いられ、二つの出来事の生起が重なっている場合には単純過去が用いられると結んでいる。単純過去と前過去の差異をすべての単純時制と複合時制に拡大するには慎重であらねばならないが、表 2 の結果を見るかぎり、意味の差が反映されているように思われる。つまり、une fois que 節では明確な完了を示すので複合形が多く、完了の結果状態を示す状態動詞の être や受動文が多用される。反対に aussitôt que 節は、出来事の連続的生起を示すので単純形が多用される。une fois que 節ではほとんどあらわれない自動詞や代名動詞の単純形が aussitôt que 節には見られるのもこれが理由と考えられる。

3. 主節と従属節

une fois que 節と aussitôt que 節の特徴は表 2 に示した。これらの特徴がフランス語の平均的な文の中でどの程度特殊なのかは興味のあるところであり、それを知るための一つの方法として、手元のデータの主節の特徴との比較を試みることにする。表 3 は主節の述語を表 2 と同じ基準を用いて分類したものである。

動詞の種類による分類のうち、他動詞能動文と自動詞文は、それぞれ40～50%、20%前後と、主節・従属節、une fois que・aussitôt que のすべてにおいてほとんど差がない。複合形動詞は、主節では10%前後であるのに対し、従属節においては une fois que で66%、aussitôt que で35%と従属節において圧倒的に多い。これは当然の結果といえるだろう。注目すべきは受動文で、une fois que の場合にはとりわけ顕著である。主節での受動文の出現は非常に少なく全体4%にすぎないが、従属節では受動文の割合が非常に高い。単純形では全体の37%、複合形でも14%の高率で受動文があらわれている。aussitôt que

表 3：主節の構造

		une fois que			aussitôt que		
		simple	composé	total	simple	composé	total
tr actif	FR	79 85%	14 15%	93	49 96%	2 4%	51
	MD	18 82%	4 18%	22	2	2	4
		97 42%	18 62%	115 44%	51 46%	4 44%	55 45%
passif	FR	10 91%	1 9%	11	6 100%	0	6
	MD	0	0	0	2	0	2
		10 4%	1 3%	11 4%	8 7%	0 0%	8 7%
int	FR	38 88%	5 12%	43	19 90%	2 10%	21
	MD	8 100%	0 0%	8	2	0	2
		46 20%	5 17%	51 20%	21 19%	2 22%	23 19%
pron	FR	22 88%	3 12%	25	17 89%	2 11%	19
	MD	4 100%	0 0%	4	0	1	1
		26 11%	3 10%	29 11%	17 15%	3 33%	20 17%
être	FR	13 100%	0 0%	13	1 100%	0	1
	MD	4 100%	0 0%	4	0	0	0
		17 7%		17 7%	1 1%	0 0%	1 1%
autres	FR	24 92%	2 8%	26	13 100%	0	13
	MD	10 100%	0 0%	10	1	0	1
		34 15%	2 7%	36 14%	14 13%	0 0%	14 12%
total		230 89%	29 11%	259 100%	112 93%	9 7%	121 100%

の場合には、これほど顕著な差異は見られないものの、それでも受動文は主節には少なく従属節に多いという傾向は認められる。受動文のもつ完了アスペクトがこの現象を説明するのだろうと考えられるが、一般に従属節には受動文が多いのかどうかということも調査してみる必要があるだろう。

次に自動詞の複合形を見る。助動詞の種類を基準にして複合形自動詞を分類したのが表 4 である。周知の通り、être を助動詞にとる動詞は少数であり、être をつねに要求する動詞は30ぐらい、avoir と être を併用する動詞は50ぐらいといわれている (Leeman (1994))。une fois que 節の中では、être を要求するそれら少数の自動詞が27例と、全体 (259例) の10%以上を占める高い頻度であらわれ、潜在的には多数であるはずの avoir をとる自動詞は17例と多くはない。また、une fois que 従属節以外の環境では、自動詞の複合形の出現率は低く、この点で une fois que 節は特殊である。

表 4 : 自動詞の複合形

	une fois que		aussitôt que	
	従属節	主節	従属節	主節
être PP	27	3	5	1
avoir PP	17	2	4	1

以下に挙げるのは être + PP としてあらわれたすべての自動詞である。aller は、être を助動詞に要求するにも関わらず単独の PP としては決して用いられないという変わった特徴をもつ動詞であるが、複合形、単純形を問わず、我々のコーパスの従属節の中に全く見られなかった。

apparaître, arriver, devenir, entrer, sortir, revenir, parvenir, naître, tomber, monter, mourir, passer, partir, sortir,

une fois que 節において特に数多く見られる、自動詞複合形と他動詞受動文の例を、aussitôt que におけるものも加えて以下に挙げる。

(23) Mais qu'importe: *une fois qu'ils sont sortis de prison*, la communauté internationale les oublie vite et cesse le plus souvent ses pressions sur le gouvernement. (MD)

(24) ... *aussitôt que cette dame sera sortie*, Jean, vous irez rincer la baignoire, décrétait la vieille fille. (Bazan, *La mort du petit cheval*)

(25) Il faut bien vivre la vie des organes jusqu'à l'extrême limite *une fois qu'ils sont*

fabriqués? (Soller, *Le coeur absolu*)

(26) ... *aussitôt que l'appareil est mis en rotation, l'aiguille du galvanomètre dévie.* (*Hist. Gén. Sciences*, T/3 Vol.1)

4. 主節と従属節の位置

表5は主節と従属節の位置関係をまとめたものである、主節に対する前置と後置に注目すると、une fois que では aussitôt que よりも前置の傾向がわずかではあるが強いことがわかる。坂上(1999)は11種類の時況節を研究しているが、坂上の挙げている時況節のうちで前置が後置に比べて圧倒的に多いのは、dès que の67:25である。本稿の une fois que や aussitôt que に類似した意味をもつものとしては、他に après que が挙げられているが、これは後置の方が多く64:95となっている⁵。iconicityの観点からすると、これらの従属節は前置されるのが自然と考えられる⁶。それにもかかわらず、なぜ接続詞によって差がでるのか、説明を必要とする問題である。

表5：主節・従属節の位置関係

従属節の位置		une fois que		aussitôt que	
FR	前置	118	56%	51	46%
	後置	68	32%	53	48%
	挿入	17	8%	6	5%
	その他	8	4%	1	1%
	計	211	100%	111	100%
MD	前置	25	52%	3	
	後置	16	33%	6	
	挿入	6	13%	1	
	その他	1	2%	0	
	計	48	100%	10	
総計		259		121	

一つの回答は Blanche-Benveniste (1998 a) が une fois que について明らかにした特徴に求められるだろう。Blanche-Benveniste は(27)のような例を挙げて、話し言葉で une fois que 節が用いられるときには文脈依存性が非常に高く、先行文脈において未完了のものとしてすでに提示されているか、あるいは話し手自らが提示した事行を、そのままもう

一度繰り返して完了相で述べるという用い方が一般的だと述べている。つまり、une fois que 節が付け加える新しい情報は完了相のみであって、それ以外はすでに既知の話題だということである。そう考えれば、une fois que において従属節が前置されやすいことも、受動文が多いことも説明はつく。aussitôt que との比較の観点から、従属節の主語や目的語の限定度の分析、先行文脈の分析をしてこの仮説を検証する必要があるだろう⁷。

(27) On veut démarrer la maison cette année. *Une fois que la maison sera démarrée*, qu'on aura fait les prêts [...].

5 . 主節・従属節の位置と時制

従属節が主節に対して前置するか後置するかという位置の問題と、述語の時制の間に関係があることは、坂上(1999)などが述べているとおりである。表7、表8は une fois que と aussitôt que における述語の時制の組み合わせをまとめたものである。従属節の位置としては前置と後置のみをとりあげた。それぞれのグループにつき、頻度の高い方から上位3種類の組み合わせを拾うと表6のようになる。

表6：時制の組み合わせ⁸

une fois que	FR	前置	PC+Pr	Pr+Pr	PA+PS	64/118	54%
	MD	前置	PC+Pr	Pr+Pr	FS+FS	15/25	60%
	FR	後置	Pr+PC	Pr+Pr	CPr+CPr	29/68	43%
	MD	後置	FS+FA	Pr+PC	Pr+Pr	12/16	75%
aussitôt que	FR	前置	Pr+Pr	PA+PS	PS+PS	30/51	59%
	FR	後置	Pr+Pr	Impf+Impf	Pr+PC	26/53	49%

どのグループにも上位に 直説法現在形 同士の組み合わせがある。この組み合わせは aussitôt que の方に頻繁に見られる(29/104、28% vs 36/227、16%)。直説法現在と 複合過去 の組み合わせは、une fois que では非常に多い(58/227、26%)が、aussitôt que では多くない(8/104、8%)。aussitôt que が前置されている場合には他とは違った特徴が見られ、前過去 と 単純過去 の組み合わせ、単純過去 同士の組み合わせが多い。従属節が後置されている場合には une fois que, aussitôt que とともに、前過去 と 単純過去 の組み合わせは非常に少ない。以下にその稀な例を挙げる。

(28) mais celles-ci reprirent avec une intensité accrue *aussitôt que chacun des deux adversaires eut réussi à reconstituer ses forces aériennes maritimes* (Le Masson, La

marine)

- (29) il finit par trouver en effet la position - recroquevillé sur lui-même, les genoux remontés au menton, les mollets croisés, les mains posées sur les pieds - qui lui assurait une insertion si exacte dans l'alvéole qu'il oublia les limites de son corps *aussitôt qu'il l'eut adoptée*. (Tournier, *Vendredi ou les limbes du pacifique*)
- (30) des frégates et des destroyers d'escorte, bâtiments qui leur étaient comparables, furent armés en quelques semaines seulement, *une fois que les méthodes de montage eurent été bien mises au point*. (Le Masson, *La marine*)

そのほかに、前過去 は前置された場合には例外なく 単純過去 と組み合わせられるが、後置の場合にはそれ以外の時制とも一緒に用いられるなどの事実も観察できる。おそらく、前置の場合の方が従属節と主節の関係は緊密で、型どおりの組み合わせになりやすいのに対し、後置の場合には文法的な係り受けがゆるむのだろう。現在 と 複合過去 の組み合わせに関して *une fois que* と *aussitôt que* の間に大きな差があるのは文体的な理由のためだろうと考えられる。

6 . まとめ

本稿では以下のことが明らかになった。

1 . 主節と従属節の比較

- 受動文は従属節に多い。
- 従属節には複合形が多い。
- 他動詞能動文や自動詞はほぼ同じ割合である。

2 . aussitôt que と une fois que の比較

- 受動文は *une fois que* に多い。
- *une fois que* の従属節は複合形が多い。
- 主節・従属節ともに *une fois que* には *être* が多い。
- *une fois que* 節には *être* の単純形、*aussitôt que* 節には自動詞の単純形が多い。
- *aussitôt que* は、従属節前置のときに、前過去 + 単純過去、単純過去 + 単純過去 が多く見られる。逆に 現在 + 複合過去 は多くない。*aussitôt que* は、*une fois que* ほど日常的な言い回しではない。

3 . 従属節の位置に関する比較

- 従属節前置の場合以外には、前過去 と 単純過去 の組み合わせはほとんど見られない。

表 7 : une fois que の時制

			従属節時制												
位置	FR/MD	主節時制	PC	Pr	FA	PA	PS	PQP	IMPF	CP	PS	CPr	PSC	計	
前置	FR	Pr	35	16					1	1				53	
		PS				13			1	2		1		17	
		PS			6		7							13	
		IMPF	2						7	2				1	12
		PC	7	1					1	2				1	12
		CPr		1								2			3
		PQP							1						1
		FProche			1										1
		その他	3	1				1							1
	FR 計			47	19	7	13	8	11	7	2	1		3	118
	MD	Pr	5	5								1			11
		PS				2							1		3
		FS	2		1		5								8
		PC	1												1
IMPER		1												1	
その他	1												1		
MD 計			10	5	1	2	5			1	1			25	
前置 計			57	24	8	15	13	11	7	3	2		3	143	
後置	FR	Pr	14	12				1	1					28	
		PS				1						2		3	
		PS		1	2		2		1					6	
		IMPF	1		1	1		2	1			1		7	
		PC	1			1			1					3	
		CPr					1				2		3	6	
		PQP				1		1						2	
		FProche										1		1	
		SPr	1											1	
	その他	5	3	2							1			11	
	FR 計			22	16	5	4	4	4	3	4	3	3	68	
	MD	Pr	4	3								1			8
		FS			5										5
		PC			1					1					2
SPr			1											1	
MD 計			4	4	6				1	1				16	
後置 計			26	20	11	4	4	4	4	5	3	3		84	
総計			83	44	19	19	17	15	11	8	5	3	3	227	

Pr: présent, PS: passé simple, FS: futur simple, IMPF: imparfait, PC: passé composé, CPr: conditionnel présent, PQP: plus-que-parfait, Fproche: futur proche, FA: futur antérieur, PA: passé antérieur, CP: conditionnel passé, PSC: passé surcomposé, IMPER; impératif,

表 8 : aussitôt que の時制

		従属節時制											
位置	主節時制	PC	Pr	FA	PA	FS	PQP	IMPF	CF	PS	CPr	PSC	計
前置	Pr	4	13										17
	PS				9		1			8			18
	FS			1		1							2
	IMPF						2	5					7
	PC	1											1
	IMPER			2		1							3
	その他	1		1							1		3
計		6	13	4	9	2	3	5		9			51
後置	Pr	3	16										19
	PS				2					3			5
	FS		1	1		3							5
	IMPF	1						6					7
	PC	2										1	3
	CPr								1		3		4
	PQP						1						1
	SPr		1										1
	その他		5			1		1			1		1
計		6	23	1	2	4	1	7	1	3	4	1	53
総計		12	36	5	11	6	4	12	1	12	4	1	104

冒頭の PP 構文との関係にもどって暫定的にいえることは次のとおりである。PPNP の語順の PP 構文を、従属節からの être の省略に由来すると考えるのはやはり難しいと言わなければならないだろう。PP 構文に être を常に想定しようとする、倒置受動文のような非常に稀な文を仮定さざるを得なくなり、不自然である。une fois que 節は受動文や être と共起しやすく、完了した結果状態を表すので、PP とは深いつながりがあるが、同時にまた、他動詞能動文の複合形の生起頻度は以上で見たように受動文以上に高い。したがって PPNP の語順の PP 構文について、他動詞能動複合形と関連させた分析を試みることは、少なくとも être の省略説以上の意味があると考えられる。

〔注〕

- 1 Frantext を使って筆者が行った調査による。稀ではあるがこれらの語句に導かれず、PP + NP の語順の分詞構文もある。
- 2 Blanche-Benveniste (1998 b) は、過去分詞に注目した研究である。現在分詞の完了形は、現在分詞 + 過去分詞なのに、なぜ過去分詞の完了がないのかという問いは新鮮である。また、Frantext は、avoirやêtreとともに現れるPPと単独で現れるPPを別のカテゴリーに分類している。単独のPPにはAP_φ(過去分詞形形容詞)というタグが付されており、分詞構文のPPもこれに該当する。
- 3 PP の一致の問題がこの仮説にとっては難問となる。
- 4 Avoir の単純形も全部で12例 (une fois que 節に10例、aussitôt que 節に2例) と、比較的高い頻度であられる。
- 5 しかし、坂上 (1999) は統計的な均一さを母集合に求めているので、これらの数字の意味するものが、ここで我々が考えているものとは同じでない可能性もある。
- 6 Haiman (1985) など。
- 7 une fois que 節が条件節として用いられている場合には前置されやすくなるということも予想可能である。cf. Yasunaga (1998)。
- 8 右から2番目の欄は、全体にしめる上位3種類の組み合わせの絶対値を示し、右端の欄はその割合を表す。各時制の省略表記の説明は表7に付した。

〔参考文献〕

- Blanche-Benveniste, Cl. 1998a, "Une fois dans la grammaire", *Travaux de linguistique*, 36 p.85-101
- Blanche-Benveniste, Cl. 1998b, "L'usage prédicatif secondaire des participes passés", *Prédication, assertion, information: Acte du colloque d'Uppsala en linguistique française 6-9 juin 1996*, édité par M. FORESGREN, K. JONASSON, H. KRONNING, p43-56
- Haiman, J. (ed) 1985, *Iconicity in syntax*, Benjamins
- Hanse, J. 1987, *Nouveaux dictionnaire des difficultés du français moderne*, Duculot
- Lapierre, L., 1998, *Le participe passé en français ; sa syntaxe et ses fonctions dans le texte de spécialité*, LFS13, Peterlang
- Leeman, D., 1994, *Si j'aurais su, j'aurais pas venu : remarques sur les auxiliaires, la transitivité et l'intransitivité*. Le Gré des langues, vol7, p48-62
- Okubo, N., 1999, "Le passé composé et le passé simple: leur concurrence avec leur temps composé", 『フランス語学研究』第33号, p1-14
- Sandfeld, Kr. 1977, *Syntaxe du français contemporain, les propositions subordonnées*, Droz
- Yasunaga, H. 1998, *Positioning of adverbial clauses in Brazilian Portuguese conversation*, "Studia linguistica", vol,11
- 大久保伸子, 1997 「前過去と大過去」, 『フランス語フランス文学研究』71, p 82 - 95
- 坂上るり子, 1999, 「時況節を含む発話における節間の時・アスペクト関係」, 『フランス語学研究』第33号, p 27 - 39
- 曾我祐典, 1992, 『フランス語における状況の表現法 - 構文・動詞叙法の選択』, 白水社